

製品名: リン酸化タウ (T231) (10X15) ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe06036

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP,IF-P
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG (リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有)。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:500,IP 1:20-1:50,IF-P 1:200-1:500
分子量	79kDa

抗原情報

遺伝子名	MAPT
別名	MAPT; Microtubule-associated protein tau; MTBT1; Neurofibrillary tangle protein; Paired helical filament-tau; PHF-tau;
遺伝子 ID	4137.0
SwissProt ID	P10636
免疫原	ヒトタウの Thr231 を囲む残基に対応する合成リン酸化ペプチド

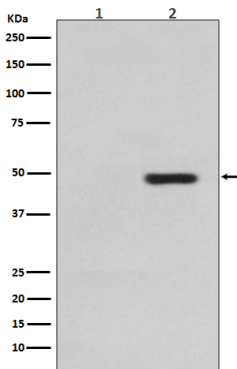
背景

タウは、特に軸索において、微小管の組み立てを促進および安定化させる、異質な微小管関連タンパク質です。アミノ末端の挿入配列とカルボキシ末端付近のタンデムリピート数が異なる6つのアイソフォームが同定されており、タウはERK、GSK-3、およびCDK5によって約25箇所です過リン酸化されます。リン酸化は、タウが微小管に結合する能力を低下させます。神経原線維変化はアルツハイマー病の主要な特徴であり、この変化は過リン酸化タウからなる対になったらせん状のフィラメントの束です。タウは微小管の組み立てと安定性を促進し、神経極性の確立と維持に関与している可能性があります (PubMed:21985311)。C末端は軸索微小管に結合し、N末端は神経細胞膜成分に結合することから、タウは両者のリンカータンパク質として機能することが示唆されている (PubMed:21985311、PubMed:32961270)。軸索の極性は、神経細胞内の中心体によって定義される細胞体領域におけるTAU/MAPTの局在によって決定される。短いアイソフォームは細胞骨格の可塑性を可能にする一方、長いアイソフォームは細胞骨格の安定化に優先的に関与している可能性がある。

研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;アルツハイマー病

画像データ



(1) SH-SY5Y 細胞溶解物、(2) ソルビトール処理した SH-SY5Y 細胞溶解物におけるリン酸化タウ (T231) 発現のウェスタンブロット分析。